７月幼稚園だより

令和８年７月１日
千代田区立番町幼稚園
園長　美越　英宣

伝統がつなぐ、子どもたちの心と育ち

副園長　荒木　久子

（番町幼稚園HP）

今年は、隔年で開催される江戸三大祭の一つ「山王祭」の年でした。江戸時代から続くこの大祭は、豪華な神幸行列が都心を彩る、東京屈指の伝統行事であり、地域の中で大切に受け継がれてきた祭事です。

幼稚園でも、全学年で神幸祭の見学に出かけたほか、六番町町会や番町連合の皆様と、教職員が宮入りや町内渡御、市ヶ谷駅繰り込みに参加させていただきました。

祭りの後、幼稚園近くの町会掲示板には御礼の掲示が並び、神酒所や提灯飾りも片付けられ、町はすっかり祭りの後の静けさです。その一方で、園内には祭りの余韻が日に日に広がっていきました。

神幸祭で見た花山車や馬、実際に引いた山車、威勢よく担がれる神輿――。子どもたちが経験したことや、ご家族・友達と共に見て心に残ったこと、心動かされたことが、各学年の遊びや生活の中に取り入れられたり、再現されたりしていったのです。

神輿作って5歳児うめ組が担ぎ、干支山車の馬を作って4歳児さくら組が引き、手製の太鼓でお囃子を奏でる。その賑わいに、花山車を引いて3歳児もも組が加わり、先生と一緒に手拍子で盛り上げます。そして最後には、誰からともなく「どなた様も、お手がしら拝借。よーっ!」と声が上がり、手締めで締めくくられます。このように、経験がその場限りで終わるのではなく、子どもたちの糧となり、自らの遊びや生活の中に生きていくことは、番町幼稚園が大切にしてきた文化であり、主体的な学びの芽でもあります。



また、祭りを通した地域の方々の温かな関わりや目にした様々なご活躍の姿は、子どもたちにとっても大きな学びとなりました。時代を超えて受け継がれてきたものが、次の世代へと確かに引き継がれ、脈々と受け継がれていくことを改めて願う機会でもありました。

子ども山車や神輿の場面では、各町会の方々が安全に細心の配慮をされながら、声かけや誘導などで子どもたちを温かく支えてくださいました。改めて、地域の方々に見守られながら子どもたちが育っていることを実感いたしました。地域の幼稚園として、これからも地域の皆様と手を携え、子どもたちを育んでいく番町幼稚園であり続けていきたいです。

先月末には保護者の皆様が子どもたちの笑顔のために、忙しい中で企画を練り、工夫を重ね、人とのつながりも活かしながら準備と運営をしてくださった「親子で遊ぼう」が台風のためやむなく中止となりました。この「親子で遊ぼう」は、開始から十数年を経て、番町幼稚園の大切な伝統の一つとなっています。これからも「親子で遊ぼう」が、無理なく末永く続いていく大切な伝統として、その時々の持ち味やお力を生かしていただきながらあり続けていくことを願っております。ご協力いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。